ざっと・ぼらん

NPO法人「W・I・N・G―路をはこぶ」代表理事　菅野真弓さん53

自分を信じて [3]

地域に役立つ存在に

重症心身障害者らへのヘルパー派遣やデイサービスなど、地域での生活を支援するNPO（非営利組織）法人「W・I・N・G―路をはこぶ」（大阪市西成区）。大阪市内で三つの小規模作業所を運営する社会福祉法人「ゆうのゆう」と緩やかなネットワークを結ぶ。

うちは「コンビニ」みたいなところ。百貨店や高級店ではなく、地域に役立つ存在でありたい。

大学一年の時、ボランティアサークルで遠足に出かけた際、障害を持つ男児の食事を介助した。アイスクリームをスプーンで口に運ぼうとするが、うまく食べさせることができない。溶けだしたアイスで手はぐちゃぐちゃ。最後は半べそになった。

ゴクン、と飲み込む。私たちにとって何げない動作が困難な人がいる。初めて身近に触れ、とてもショックだった。

大学卒業後、知的障害者が生活する施設で約十年間勤務。その後、在宅を支援する訪問相談員として、一組の親子に出会った。重度の障害がある四十代男性と、七十代母親の二人暮らし。近くに住む妹の支えを受けながら、片時も目が離せない毎日。閉じこもりがちな母親は疲れ切っているようだった。

障害を持つことが不幸ではなく、家族がそれを負担と思うことが不幸だと思う。でも、当時、対応できる制度などない。それなら昼間、みんなが集まれる場所を作ろう、と。

「地域の中で生きる。そのための支援が私たちの仕事」と話す菅野真弓さん（大阪市西成区で）

障害者ら集える場支援

一九九一年、大阪市西成区に小規模作業所「デーセンター夢飛行」を開いた。半年間はボランティアで、運営資金をやりくり。毎朝、各家庭を歩いて回り、迎えに行った。親子の表情が次第に和らいでいくのを見た。

見送るお母さんがみんな笑顔になってね。信頼を寄せてくれるのが伝わり、うれしかった。少しの時間離れることで、互いにいい時を過ごすきっかけになってほしかった。

「同じような場を作って」。母親たちから支持を集めた。一つの大きな施設ではなく、身近な地域でサポートしようと、同様の作業所を福島区、都島区にも開設。二〇〇一年五月、NPOを設立し、作業所の通所者ら約百人のケアにあたる。昨年月には、地域の人々と共に集空間「フリースペース〝Tamariba〟（たまりば）」開いた。二十代のスタッフが助などの仕事をしながらイベント企画もこなしている。

福祉の仕事は想像力が要。行政に追随していてはメ。今は〈インフォーマルなサービスでも五年、十年には〈フォーマル〉な制度変わる。想像を膨らませてしい。

（聞き手・西村　公

…団体名には、重い障害があっても自らが主人公となって歩く「路」を創り、その「路」を未来へつなぎ、はこぶという思いが込められている。

…58人のスタッフのほか、若者が外国で働きながら1年を過ごす「ワーキング・ホリデー制度」で来日中の韓国人ら6人も活動している。

…「Tamariba」では3月12日午後1時半から、「ドラえもん」の鑑賞会を開く。無料。問い合わせはW・I・N・G―路をはこぶ（06・6656・1280）まで。